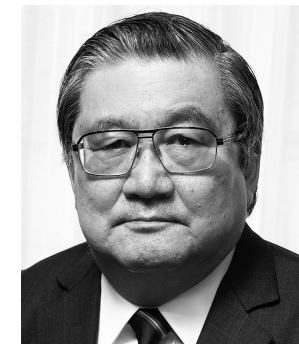


収束に向かうか、ウクライナ戦争

神奈川大学特別招聘教授
下斗米 伸夫



- * 消耗しているウクライナ軍の実態
- * 着々と国防経済化を進めるプーチン
- * 混乱するゼレンスキー体制
- * ロシアを刺激したNATO東方拡大戦略
- * ウクライナ戦争の今後をどう見るか
- * 外交的にも追い込まれているゼレンスキー
- * 米国・ウクライナ間の相互不信
- * ウクライナとはどういう国なのか
- * 戦争長期化の背景はロシア弱体化戦略
- * 戦争終結を可能にするものは何か

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は朝から雨でしたのでちょっと心配したのですが、皆さんたくさんお越しいただきましてありがとうございます。今日は、下斗米伸夫先生をお招きいたしました。（拍手）

先生は、東大法学部で比較政治を学ばれて、大学院のときにはモスクワ大学にも留学されたご経験があります。東大で法学博士号を取得されまして、その後は皆さんご存じのように法政大学を舞台にして、ロシア問題の第一人者としてずっと、さまざまな分野でいろんなご提言も含めて活躍されていらつしやいます。

ウクライナ戦争は2022年2月24日に始まりまして2年以上が経過しておりますが、2023年10月7日にハマスのイスラエル攻撃があ

って、このハマスのイスラエル間の激しい戦闘がありまして、われわれ一般にとってみますと、テレビや新聞で得られるウクライナに関連する情報がめっきり減ったような形になっております。実際、今現在ウクライナの状況がどうか、先生のようなさまざまな経験、それから歴史家としての視点も踏まえて、今日は深いお話が伺えると思います。

先生、どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

消耗しているウクライナ軍の実態

下斗米 ただいまご紹介いたしました、法政大学、神奈川大学の下斗米と申します。去年に引き続きこの席にお招きいただいて、今のウクラ